

庁舎・公共施設再編整備に関するお知らせ Vol.5

問 市役所 庁舎・公共施設再編整備推進課
☎ 36-7828

◆庁舎・公共施設再編整備基本構想（素案）に関する市民説明会等を開催しました

5月に開催した意見交換会等において市民の皆さまから意見をいただき、それらを踏まえ策定した基本構想（素案）について、8月19日（水）、21日（金）、22日（土）に市民説明会を開催しました。また、9月1日（火）までパブリック・コメントを実施しました。

説明会へのご参加、パブリック・コメントへのご意見いただきありがとうございました。

今後、9月末に基本構想を決定し、その後に基本計画の策定を進めて参ります。



詳細はこちら▶



市指定ごみ袋の品薄に伴う代替袋の使用終了について

指定ごみ袋の品薄にともなう臨時措置は、店頭での供給が安定したため、9月30日（水）で終了いたします。長期間のご協力とご不便へのご理解、誠にありがとうございました。

【臨時措置の終了日】 9月30日（水）

問 市役所 生活環境課
☎ 36-7486

【10月1日（木）以降のごみ出しについて】

10月1日（木）から、市販の透明・半透明袋でのごみ出しや直接搬入ができなくなります。ごみ集積所への排出および鉾田クリーンセンターへの直接搬入はすべて『鉾田市指定ごみ袋』のみとなりますのでご注意ください。

【お願い】

現在、指定ごみ袋は十分に回っていますので、必要な分だけ買い求めいただき、買い占めなどは控えていただきますようご協力をお願いします。

詳細はこちら▼



9月1日は防災の日

こどもが食べられる非常食とは？

災害時は、いつもと違う環境でこどもが強い不安や緊張を感じ、食欲が落ちることがあります。そのため、ご家庭の災害備蓄では、栄養面だけでなく、**安心して口にできる食べ物**を備えておくことが大切です。

●普段から食べ慣れている食品を選ぶ

災害時は、普段から食べ慣れている食品を備えておくと、こどもが安心して口にしやすいです。

●そのまま食べられる食品を選ぶ

災害時の停電や断水で調理が難しいときは、開けてすぐ食べられる非常食が役立ちます。こどもが空腹を訴えたときにもすぐに対応できます。

●長期保存できる食品を備える

定期的な賞味期限の確認と見直しが大切です。

*ローリングストックしよう！

ローリングストックとは、普段から食べている食品を少し多めに買い置きし、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。特別な非常食を用意するのではなく、日常で使う食品を備蓄として活用するのが特徴です。



（こどもの防災グッズリスト）リュックに入れて持ち出すもの

食事	すぐに食べられるもの / 高カロリー食 / こどもの好きなもの、食べ慣れているもの、食べると元気が出るもの / 飲料水、麦茶、お茶、野菜ジュース / こどもの好きなお菓子
食事のサポート	食事前エプロン / 使い捨て皿、スプーン、紙コップ、ラップ
おむつ・トイレ	紙おむつ / 防臭袋 / 携帯トイレ
衛生用品	おしりふき / ウェットティッシュ / 除菌・消毒グッズ / 歯磨き用シート、マスク
衣類	ブランケット / ガーゼ、タオル、バスタオル / 着替えセット、帽子（頭を守ります）
おもちゃ	絵本、折り紙、シールブック、ぬりえ、音が鳴らないおもちゃ
体調管理	冷却シート / 救急セット（常備薬）
その他	携帯アルミブランケット / 母子健康手帳、資格確認書、医療福祉費受給者証（マル福）などのコピー / チャック付ポリ袋 / 携帯用洗濯洗剤、洗濯袋 / 靴

問 市役所 子ども家庭課 ☎ 36-7611

災害への備え、できていますか？

全国各地で台風や地震などの自然災害が相次いでいます。「自分は大丈夫」と油断せず、この機会に備えを再確認しましょう。

日頃からの準備が、いざという時の冷静な行動と大切な命を守ることに繋がります。一人ひとりが意識を高め、今すぐ災害への備えを進めましょう。

知っておきたい避難のポイント

避難所の開設情報

避難所は、気象状況や被害状況等に応じて開設します。防災無線や市 HP 等でお知らせします。避難施設の一覧は、右記二次元コードからご確認ください。

避難施設一覧



避難先は「指定避難所」ではありません

安全な親戚・知人宅や、自宅の安全性次第では在宅避難も有効です。日ごろから複数の安全な避難先を確認し、災害の状況に合わせて自分に合った場所を選びましょう。

被害を最小限に抑えるためには

自助・共助・公助

「自助」は、一人ひとりが自ら取り組むこと。「共助」は、地域や身近にいる人どうしが一緒に取り組むこと。「公助」は、国や県、市町村などが取り組むことを表します。

災害時は公的支援が届くまで時間がかかることがあります。そのため、命を守るためには日頃からの地域のつながりや助け合い（共助）が欠かせません。

自主防災組織や防災訓練などをきっかけに、地域でのつながりを深め、災害時に助け合える地域づくりを目指しましょう。

問 市役所 危機管理課 ☎ 36-7145